



九州北部地方では、今後1か月の気温は平年より高い、降水量は多い、日照時間は少ないと予想されています。

1. 除草剤散布時の注意点

散布の時期や対象雑草は、除草剤ごとに異なります。農薬ラベルの内容を必ず確認してください。

- 1) **除草剤散布時は、出来る限りの深水にする。**
 ※田植同時散布は、浅水で植付け後**すみやかに、ゆっくりと入水し、水口の薬剤が流れないようにする。**
 ※ジャンボ剤や豆つぶ剤は、**田全体の水深を5cm以上にして散布。**
 (強風の時は薬剤の成分が端に寄りやすいので注意しましょう)
- 2) **処理後3~5日間は水深3~5cmを保つようにする。**
- 3) 水口と水尻をしっかりと止め、散布後7日間は落水や掛け流しをしない。
 (2~3日田面が露出しても除草効果に影響しないことが確認されています。)
- 4) 処理直後に大雨が予想される場合は散布日をずらす。(水尻からオーバーフローさせない)

2. 田植後の水管理、ガス湧き対策

- ①田植後から新根が発生して活着するまでは深水(3~5cm)とする。
 - ②活着後は中干しまで間断灌水を繰り返す。
- ※自然落水後に浅め(2~3cm)に湛水し、数日後に田面が見え始めたら再び湛水する。
 (間断灌水の期間は、水持ちの良否や天候により差が生じます。)

- ・気温の上昇とともに有機物の分解に伴う土壌還元が進みガスが発生しやすくなります。
- ・1月以降にわらをすき込んだ場合はとくに注意しましょう。
- ・ガスは根の生育に大きく影響を及ぼします。発生したら速やかに落水し根の健全化を図りましょう。



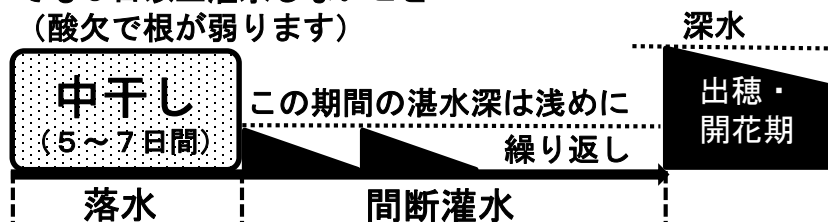
3. 中干し

下記を参考に、田植後約1ヶ月~45日を目処に行いましょう(田植時期、標高で異なります)。

中干しから出穂・開花期の水管理

- ①中干し開始の目安 茎数が320~330本/m²となった頃(右表) 中干し開始時期の目安(320~330本/m²)
- ②期間 7~10日間が目安
- ③程度 田面に軽くひびが入り、足跡がつかない位

※中干し後は再び間断灌水とし、湿田でも5日以上湛水しないこと(酸欠で根が弱ります)



株間 cm	栽培密度 株/坪	必要茎数 本/株
18	60	17~18
20	55	19~20
22	50	21~22
25	45	23~24

注) 田面が1cm以上ひび割れる「強い中干し」は逆に水稻の根を傷め、中干し後の生育を阻害するので注意してください。